


■本資料のご利用にあたって(詳細は「利用条件」をご覧ください)

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

***** : 著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

CC : 著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

 : パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。

なし : 上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。無償で、非営利的かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

- I 複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
- II 上映
- III インターネット配信等の公衆送信
- IV 翻訳、編集、その他の変更
- V 本資料をもとに作成された二次的著作物についての I からIV

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学 Todai OCW 学術俯瞰講義
Copyright 2013, 吉見俊哉

The University of Tokyo / Todai OCW The Global Focus on Knowledge Lecture Series
Copyright 2013, Shunya Yoshimi

学術俯瞰講義2013

この国のかたち：日本の自己イメージ

アメリカの雲

—前回「お茶の間のなかのニッポン」への補論—

吉見俊哉
東京大学

吉見俊哉
『夢の原子力-Atoms for Dream』
ちくま新書、2012年

<http://www.chikumashobo.co.jp/product/97844480066763/>

“We’ve just been basking in the warmth of the atomic sunshine.”



戦後という冷戦と原子力

Party Cake celebrating for the Success
of Atomic Bomb Test in Bikini



3.11 と「長い戦後」の終わり



福島第一原発

死者:約20,000
被災者: 400,000以上
倒壊家屋: 約400,000
被害総額: 約200,000,000,000ドル

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

爆発する福島第一原発3号機
(福島中央テレビ)



Image by Digital Globe from Wikimedia Commons
http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Fukushima_I_by_Digital_Globe.jpg?uselang=ja

CC BY-SA 3.0

近現代日本の災害史と「戦後」

1891	濃尾地震	7,273
1896	明治三陸大津波	22,000
1923	関東大震災	105,000
1927	北丹後地震	2,925
1933	昭和三陸大津波	3,064
1945	三河地震	2,306
1945	枕崎台風	3,756
1948	福井地震	3,769
1959	伊勢湾台風	5,098
1995	阪神淡路大震災	6,437
2011	東日本大震災	19,001

災害列島日本

同じ地域！

大災害が少ない

長い戦後

19,001

現代日本が経験した4つのカタストロフ

1923 関東大震災

朝鮮人虐殺事件(テロ)←植民地支配

1931-45 アジア太平洋戦争

ヒロシマ・ナガサキの被爆

長い戦後(戦後+ポスト戦後)

1964 新潟地震 1968 十勝沖地震

1995 神戸大震災

オウム真理教事件(テロ)

2011 東北大震災

フクシマの被曝



問1 「長い戦後」をいくつかの時期に分割するとしたら、どのように分けられるか？ また、それはなぜか？

ポスト戦後期における原子力の透明化

1945



25年



1970



25年



1995

➤ 53 アイゼンハワーによる「原子力平和利用」演説

➤ 54 ビキニ環礁での水爆実験

➤ 第5福竜丸の被曝

初代ゴジラ誕生

➤ 55 原水禁運動 ⇔ 原子力博

➤ 60 福島県による原発誘致

➤ 70 大阪万博

敦賀原発1号炉/GE

70 美浜原発/WH, 71福島原発/GE,

74 高浜原発, 75 玄海原発,

76 浜岡原発

➤ 95 阪神淡路大震災

➤ 2011 東日本大震災 福島原発事故

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

東京湾から上陸し、首都防衛のための高圧線を
破壊するゴジラ



Image by takato marui, from Wikimedia Commons
http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Osaka_Expo%2770_Korean_Pavilion.jpg?uselang=ja

CC BY-SA 2.0

原水爆反対と原子力推進の対抗構造？

- 1945.8 **広島・長崎への原爆投下**
- 1950.6-53.7 **朝鮮戦争**
- 1953.12.8 **アイゼンハワー「原子力平和利用」演説(国連)**
- 1954.3.1 **ビキニ環礁水爆実験**
- 1954.5 **原水爆禁止署名運動開始(東京・杉並)**
- 1954.8 **だれにもわかる原子力展(新宿伊勢丹)**
- 1955.5.13 **原子力平和利用大講演会(日比谷公会堂)**
- 1955.8 **第1回原水爆禁止世界大会(広島)**
- 1955.11.1 **原子力平和利用博覧会(東京・日比谷)**
- 1955.11.23 **正力松太郎の入閣(原子力担当大臣)**
- 1955.12 **原子力三法成立**
- 1956.1 **正力 原子力委員会委員長 →東海村への原発建設**
- 1965.5 **東海村原子力発電所原子炉始動(日本初)**
- 1968.1 **佐世保への原子力空母寄港反対闘争**
- 1970.3 **大阪万博に敦賀原発からの初の送電**

原爆と原発の対抗構造から高度成長へ 大戦から冷戦へ

1945 広島・長崎への原爆投下

1954 ビキニ環礁水爆実験(第五福竜丸)

1954 反核運動の興隆

1955 原水禁大会

1953 アイゼンハワー大統領
Atoms for Peace

1955 原子力平和利用講演会

1955 原子力平和利用博

1955 正力原子力委員長

高度経済成長

1965 東海村原子炉 始動

1970-71 敦賀、美浜、福島原発 稼働

冷戦における「夢の原子力」という傘

New Look + Atoms for Peace (アイゼンハワー)

戦略1 持続可能な冷戦

戦略2 広島・長崎の忘却

戦略3 原子力産業の海外進出

日本側での呼応：正力松太郎 + 中曽根康弘

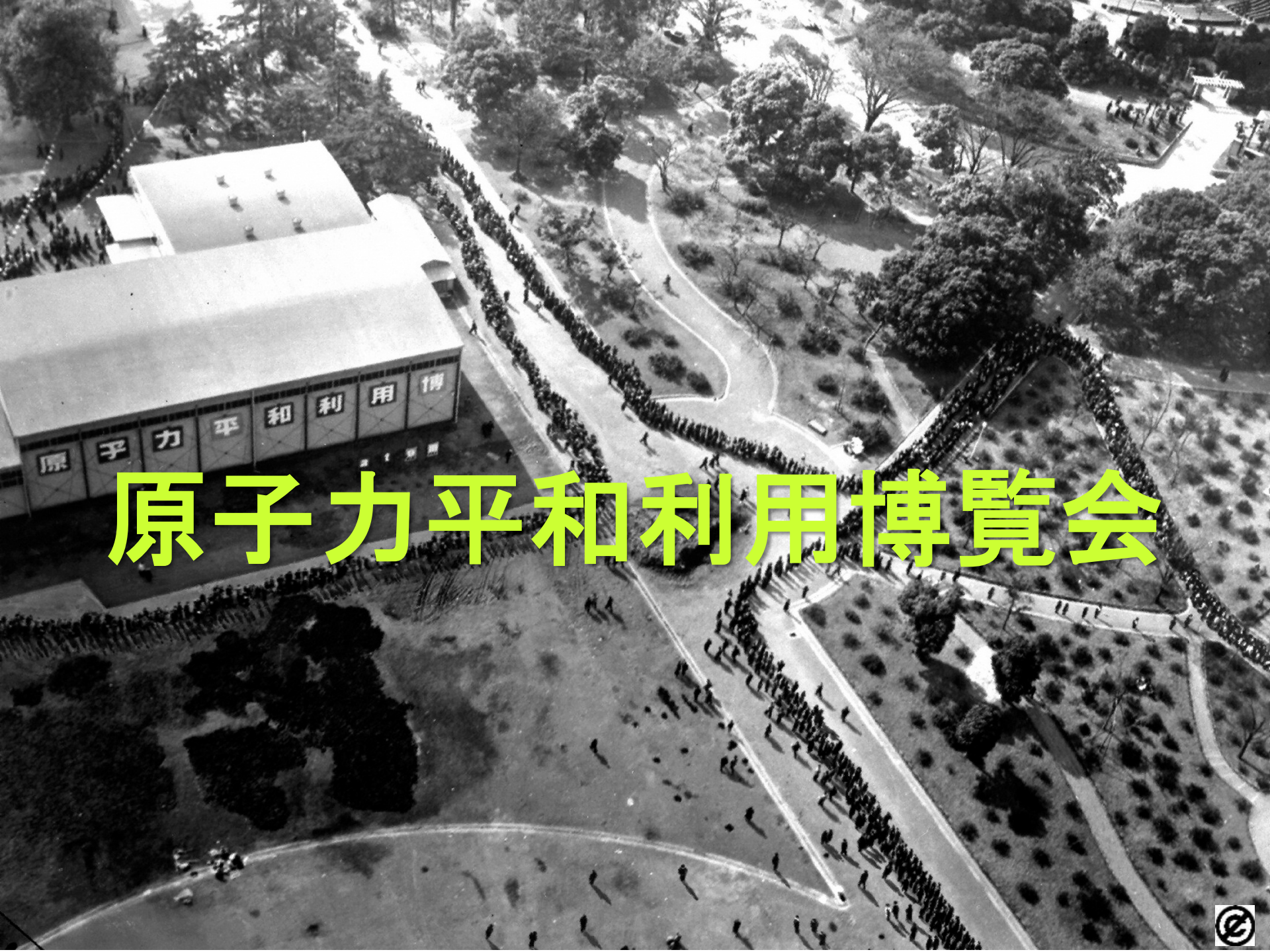
反原水爆運動の周縁化

原子力平和利用博 → 大阪万博

アメリカの原子力技術⇒日本の電力産業

アメリカ的生活様式(豊かさ)への夢

⇔ 原発のエネルギー(アメリカからの技術移転)



原子力平和利用博覧会

原子力平和利用博の日本列島巡回

原子力平和利用博覧会 ← 正力+読売新聞

原子力の基礎知識と平和利用に関する映画の上映

実物大原子炉模型、電光式原子核反応解説装置、工業・医療・農業へのアイソトープ利用、マジックハンド、原子力飛行機・原子力船・原子力列車・・・

- 日比谷公園(東京) 1955.11.1-12.12 読売新聞+USIS 367,669人
- 愛知県美術館(名古屋) 1956.1.1-1.24 中日新聞+USIS 279,067人
- 京都市美術館(京都) 1956.2.12-3.4 朝日新聞+USIS 160,000人以上
- 大阪アリーナ(大阪) 1956.3.25-5.6 朝日新聞+USIS 200,000人以上
- 広島市平和記念公園(広島) 1956.5.7-6.17 中国新聞+USIS 109,500人
- スポーツセンター(福岡) 1956.7.6-7.29 西日本新聞+USIS 160,000人以上
- スポーツセンター(札幌) 1956.8.26-9.17 北海道新聞+USIS 215,716人
- レジャーセンター(仙台) 1956.10.14-11.11 河北新報+USIS 173,068人
- 水戸市総合体育館(水戸) 1957.1.1-2.5 いはらき新聞+USIS 227,532人
- 県庁舎(岡山) 1957.3.20-5.10 岡山産業文化大博覧会 800,000人
- 古城公園(高岡) 1957.6.15-8.18 北日本+北国+福井+USIS 300,000人超

問2 なぜ、開催地のなかに、広島、水戸、高岡が入っているのだろうか？

USIAのプロパガンダとしての原子力博

井川充雄「原子力平和利用博覧会と新聞社」

(津金澤聡廣『戦後日本のメディア・イベント』世界思想社、2002)

水戸(茨城県)開催 1957.1～ いはらき新聞

⇔ 1956.4 原子力委員会(正力委員長)は、日本原子力研究所を茨城県東海村に建設することを決定

1960.1 日本初の原子力発電所 着工(66 運転開始)

高岡(富山県)開催 1957.6～ 読売新聞、北日本新聞、北国新聞、福井新聞

⇔ 正力＝高岡近郊の生まれ、選挙区も、高岡を中心とする富山二区、博覧会開催中の正力原子力大臣の「お国入り」

USIA設立 1953.8. ←**アイゼンハワー政権の対外広報戦略(持続可能な冷戦)**

USIAの原子力平和利用キャンペーンとしての原子力博 1954～

イギリス、ドイツ、イタリア、スイス、ベルギー、ギリシア、デンマーク、ノルウェー、アイスランド、ユーゴスラビア、トルコ、エジプト、レベノン、シリア、イラク、パキスタン、インド、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、ドミニカ、ウルグアイ、ペルー、ベネズエラ、パナマ

原子力博の効果測定(出口/入口):東京、大阪、広島、札幌、仙台、水戸

→ **原子力平和利用の技術的可能性についてのプラス感情の増大とアメリカによる軍事利用についての懸念の持続(変化なし)**

「死」の技術から「夢」の技術へ

典型的な新聞広報

わが国経済の発展と国民生活の向上は・・・原子力から

原子力平和利用博覧会開幕

人類繁栄の手段に原子力の平和利用を

「『原子力』、この第三の火の不幸な洗礼を人類のうち最初にうけた我々が、その破滅的な脅威におののき、原子力の平和利用までを警戒するようになったことは無理からぬことと思われませんが、またそれ故にこそ其の平和利用による**人類福祉の増進**を最も強くこいねがうのではないのでしょうか。……原子力はその平和利用によって**人類に幸福と繁栄**をもたらし、輝かしい将来を約束するものであります。すでに**原子医学が多くの人命を救いつつある**ことは周知の事実ですし、**原子農業によって農場では積極的に増産**がはかられ、**一般産業の分野でも原子力が果たしつつある役割は極めて重要**であります。原子力時代はすでに始まっております。今こそ我々は政界、学界、産業界など国をあげての総力を結集して原子力平和利用の実現を強力に推進せねばなりません」(西日本新聞、56年7月17日)

→ **産業全分野にわたる利用可能性＝「産業発展と国民生活向上の基盤」**

⇔ **世界の先進諸国に立ち遅れる日本の原子力利用**

ヒロシマ(平和記念公園)での原子力博

「最初の原子爆弾投下によって二十数万の犠牲者を出した広島市民が原子力自体に対して強い憎悪や恐怖に似た感情を抱きつづけてきたことは当然」であったが、「いまやわれわれは、地上において人類がかち得た最大のエネルギーである原子力の平和利用について世界の各国民が全知全能を傾けつつある事実」から、「主観的な要素を捨て、これを客観的に科学的な眼でながめ、その本質を探り、その価値を判断する態度が必要」(中国新聞社説 57.5.26)

長崎原爆青年乙女の会：「私たちは原爆と聞いただけで心から憤りを感じますが、会場を一巡してみても原子力がいかに人類に役だっているかが分かりました」(中国新聞 57.5.29)

「東京会場で呼びもののマジック・ハンドを操作していた稲田梅香さんは、**広島で原爆に会ったアルバイト女学生**で、国連軍最高司令官レムニッツァー大將が入場したとき、とっさの思いつきで『歓迎』をマジック・ハンドで大書した。**原子力平和利用博だからこそ、軍人の代表がこの博覧会に関心を示してくれることはうれしかったことだろう。**広島では、東と西から放射能雨が降り注ぐ原爆慰霊碑前の会場で、アメリカ大使館が約一億円の出品費を負担して成立したこの博覧会が、世界の平和と現代人の新しい生活への願望のためのささやかなサービスとして繰り広げられる」(中国新聞 57.5.27)

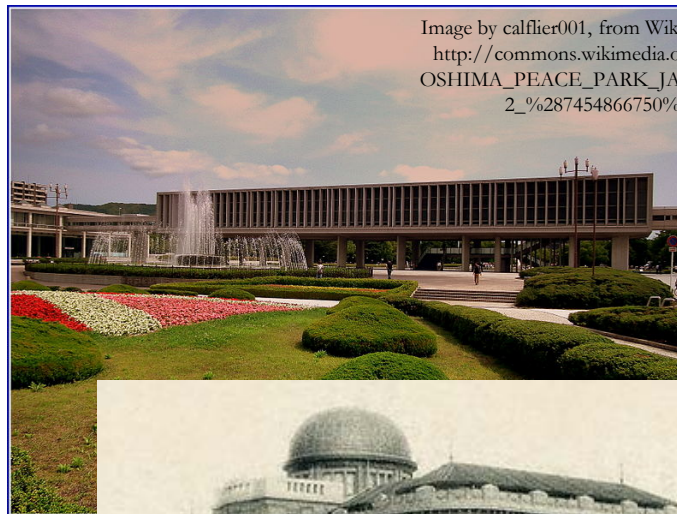
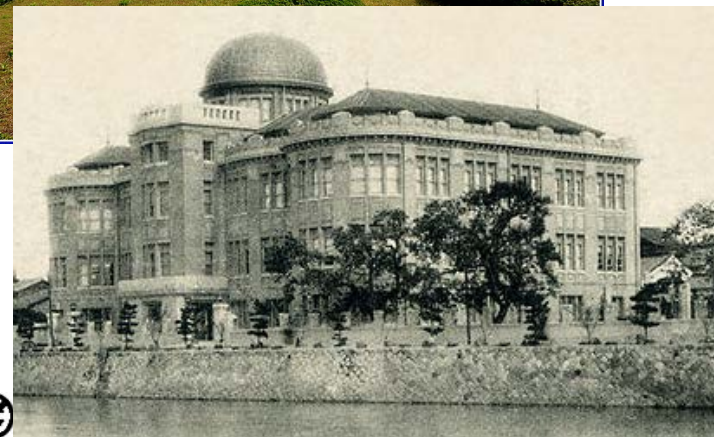


Image by calflrier001, from Wikimedia Commons
http://commons.wikimedia.org/wiki/File:HIR_OSHIMA_PEACE_PARK_JAPAN_JUNE_2012_%287454866750%29.jpg?uselang=ja
CC BY-SA 2.0



東海村と原子力博：水戸原子力博（1957年）

幸福と繁栄を約束する原子力平和利用（いはらき 57.1.1）

「世紀の『第三の火』は東海村に点ぜられようとしている。…ヒロシマ、ビキニのいまわしい記憶から脱却し切れぬわれわれ日本人はともすれば、単なる感覚的に原子力を敬遠するきらいなしとはしない。だが一たび眼を開いてみよう。いまや極致の原子は全世界の人類の幸福の担い手として輝かしい未来をくりひろげて見せる。福祉茨城の、いや世界平和のための原子力は吾々の示道標なのだ」

← その誘いとしての身と

「もはや現代人としてわれわれ茨城県民にとり原子力は常識なのだが原子力とは何だろう。……原子力平和利用博覧会は原子力の基礎知識から発電、農業、医学、工業にわたりその現状と将来を小学生にもわかるように易しく説明している」

原子力発電を必要とする理由：

「狭い国土に年々の人口増加は近く一億を数える。この多くの人口を抱えて食料や工業原料を輸入に当て工業製品を輸出しなければならない。この運命において、わが国としてはできるだけ安いコストで電力の供給を増大する必要があるのであるが、これは結局は原子力発電所の建設によってのみ果たされる途であろう」

←「石炭は燃やす場合に酸素を必要とするが原子力はそれを必要としないばかりか、原子の特性である少量でばく大の電力が生産される利点を生かせば、どんなに辺鄙な地域、例えば砂漠地帯にも原子力発電所を建設し生産に役立て得ることは特筆すべき」

原子力博と子供・女性

子供たちの感想の紙面での展開

- 「今まで『原子力』という言葉や言葉を度々聞いていたが、それは皆おそろしい兵器や爆弾に利用されたもので、いつかは人類を滅ぼしてしまうものと考えていた。原水爆はもちろん、雨の水も放射能を含んでいると、人体にひどい害がある。原子力は何と恐ろしいものだろう、というのが私の考えだった。ところが、今度の展覧会を見て、**原子力も使**
いようによっては人類の敵から、人類の最良の友になる、ということが初めて分かった」(京都 朝日新聞 56.2.17)
- 「原子力といえば広島、長崎、そしてビキニのマグロ漁船が受けた放射能の悲惨な報道で、ごくかすかにその強力さを感じているだけだった。今度お展覧会を見て僕は、**このすごい原子エネルギーも平和的に利用すれば、どんなに人類に役立つか**を知って認識を新たにした」(同上)

女性たちの感想の紙面での展開

- 「はじめ新聞社が原子力の博覧会をするということをきいたときは、どこか遠い世界の出来事のような気がしました。それがこの博覧会をみせていただきまして、**ほんとうに身近なものとして、なんだか楽しいような気がしました。たとえば台所のこと、美容のこと、それから医学の立場からこんなにも原子力の力で明るい、ほがらかな生活ができるようになるのかと思うとうれしいですね**」(西日本新聞 56.7.17)
- 「ベータ線でソバカスなんかとれるんですね。美容整形が思うようにでき、**原子力時代美人になれるってすばらしいわ**」(朝日新聞 56.2.27)

原爆の語りから原子力の語りへ

原子力による人類救済と経済発展

●救済の言説

原子力の破壊的なエネルギーによる悲惨を経験した日本だからこそ、その同じ原子力が人類生活の向上のために使うことができることを証明しなければならない。

●資源欠乏の言説

植民地の喪失により慢性的な資源エネルギーの欠乏状態となった日本にとって、原子力は経済の復興と成長を可能にしてくれる唯一の方法だ。

原子力がもたらすアメリカ的生活様式

● 原発建設におけるGE/WH 村 の出現:

- モダン住宅、学校、テニスコート、キリスト教会……
 - アメリカ式のパーティ(クリスマス、ハロウィン)、肉料理、ワイン……
 - ← 米軍基地(将校住宅地区)周辺の状況との類似(ワシントンハイツなど)
- 佐久間ダム → 福島原発 の連続性: 水力→火力→原子力

● モダニティ=アメリカ的生活のシンボルとしての電気



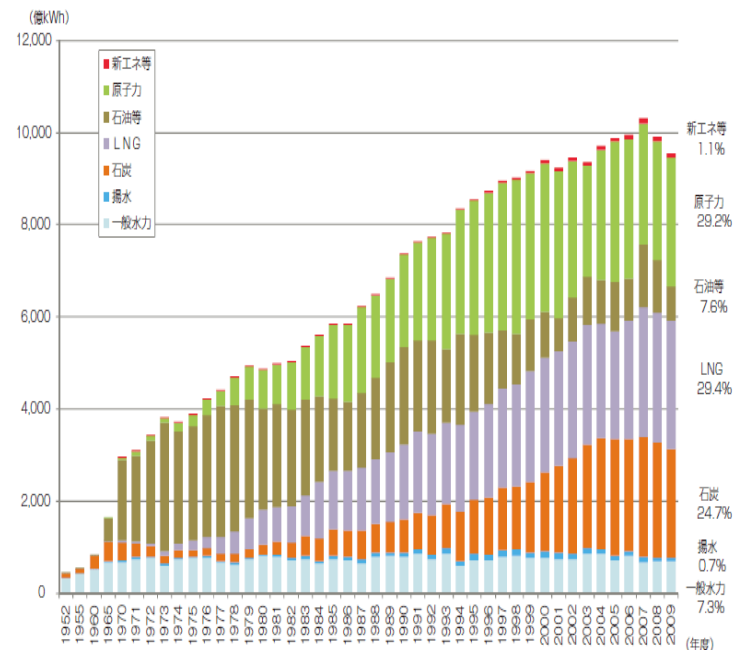
Image by Qurren,
from Wikimedia Commons
http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Sakuma_Dam_2010-03.jpg
CC BY-SA 3.0

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

GE村の写真



from Wikimedia Commons



* 平成21年度エネルギーに関する年次報告(エネルギー白書2010)より
【第214-1-6】発電電力量の推移(一般電気事業用)

原爆ソングとゴジラから クールジャパンへ

著作権の都合により、背景に挿入されていた画像を削除しました。

「東京湾から上陸し、首都防衛のための高圧線を破壊するゴジラ」の画像

戦後アメリカにおける原爆ソングの流行

原爆オリエンタリズム

- **Atomic Cocktail** (1945) by Slim Gaillard Quartette
- **Atomic Power** (1946) by Buchanan Bothers
- **When They Drop The Atomic Bomb** (1951) by Jackie Doll

アトミック→女性

原爆セクシュアリティ

- Atom Bomb Baby (1948) Dude Martin
- Atomic Baby (1950) by Amos Milburn
- **Atom Bomb Baby** (1957) by The Five Stars
- **Fujiyama Mama** (1957) Wanda Jackson
 - 日劇ウェスタンカーニバル 1959
 - 日本版「フジヤマ・ママ」(雪村いずみ 東芝)

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

"Atomic Cocktail"
Slim Gaillard Quartette
レコード画像

原水爆とハリウッドのモンスター映画

The Beast From 20000 Fathoms (1953)

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

The Beast from 20,000 Fathoms (1953公開)
のワンシーン

監督: ユージーン・ルーラー
配給: ワーナー・ブラザーズ

(日本語版『原子怪獣現わる』(1954公開))

THEM! (1954)

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

THEM! (1954公開)
のワンシーン

監督: ゴードン・ダグラス
配給: ワーナー・ブラザーズ

It came from beneath the Sea (1955)

ハリウッド映画と原爆批判:

- The Day the Earth Stood Still (1951) by Robert Wise
- On the Beach (1959) by Stanley Kramer

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

It Came from Beneath the Sea (1955公開)
のワンシーン

監督: ロバート・ゴードン
配給: コロンビア映画

原子力表象における原爆イメージの後退

- ゴジラ = 原水爆(広島・ビキニの記憶)
- アトム = 平和の大使

幸福な戦後日本

⇔ ゴジラによる破壊

1970年代以降のゴジラ人気の下降

1954 ゴジラ 9,610,000

1955 ゴジラの逆襲 8,340,000

1962 キングコング対ゴジラ 12,550,000

1964 7,200,000 1965 5,130,000 1966 4,210,000

1967 3,090,000 1968 2,580,000 1969 1,480,000

⇔原子力発電の実用化と被曝の記憶の背景化

=煌々と照らし出される都市の消費空間

→ 90年代以降における放射能恐怖の再浮上

冷戦崩壊、テロリズム、原発事故 → フクシマ

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

1954年 初代ゴジラ
東京を破壊するシーン

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除
しました。

1970年代のゴジラ
広告ポスター(三菱電機)の写真

Transformation of Godzilla and Implosion

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

1954年 初代ゴジラ
東京を破壊するシーン

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除し
ました。

1970年代のゴジラ
広告ポスター(三菱電機)の写真

From Godzilla to

YAMATO

AKIRA

Neon Genesis Evangelion

20th Century Boys

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を
削除しました。

大友克洋『AKIRA』(講談社)

1970年代における原子力言説・表象の変化

七沢潔『原子力50年、テレビは何を伝えてきたか』(NHK文研)

核のドキュメンタリー

被爆の映画

原水爆反対運動

米山リサ『広島』、奥田博子『原爆の記憶』、丸浜江里子『原水禁署名運動の誕生』等

M・ブロードリック『ヒバクシャ・シネマ』(世界思想社)

原子力の透明化
↓
対抗構造の変化

1970年前後

「被曝」と
「平和利用」の
対抗構造

1950年代半ば

井川充雄「原子力平和利用博覧会と新聞社」(『戦後日本のメディア・イベント』世界思想社)

土屋由香「原子力平和利用映画と軍産官学複合体の形成」(『占領する眼 占領する声』東大出版会)

海岸線に立つ日本の原子力発電所
1987
岩波映画

東海原子力発電所の建設記録
1966
岩波映画

電力会社の広報事業

日本製原発PR映画

平和利用博

CIE原子力映画

サブカルチャーにおける核の内破と救済 「アトム／ゴジラ」表象⇒

●「救済」の語り

- 「モスラ」
- 「風の谷のナウシカ」

●「内破」の語り

- 「宇宙戦艦ヤマト」
- 「アキラ」
- 「エヴァンゲリオン」
- 「20世紀少年」

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

大友克洋『AKIRA』(講談社)

← 戦後日本の大衆文化を深く貫いてきた核問題

原子力的な雨のなかをアメリカの傘さして

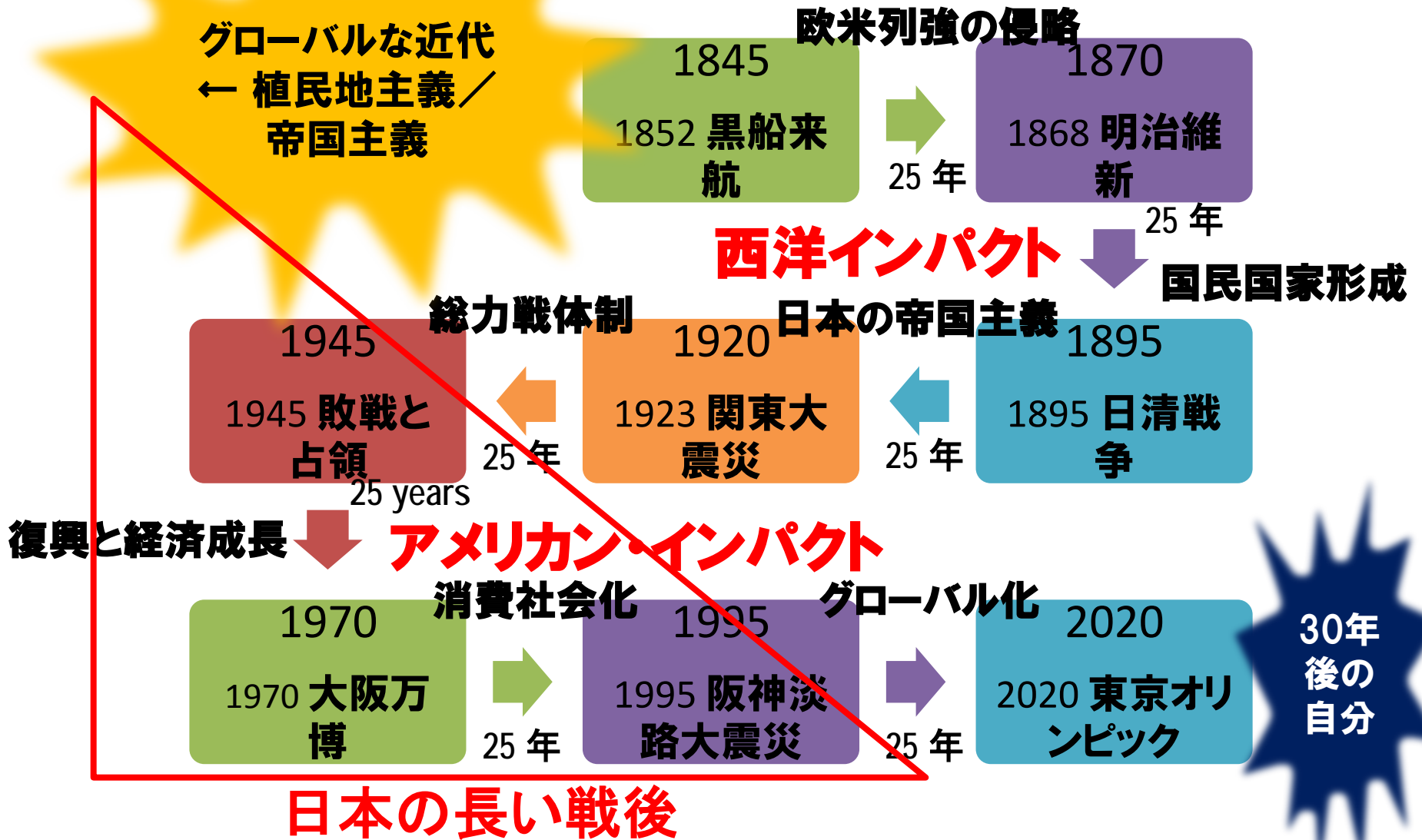
- 311以降のアメリカ軍→ トモダチ作戦
- 311以降の天皇→ 聖なる癒し 天皇への「尊敬」の念の再浮上
＝敗戦後の社会意識の再浮上:「米軍」と「天皇」
安全神話の崩壊 →権威の崩壊:政府、科学者、メディア、大学
⇔ 権威の否定 あるいは、社会の外部の権威への帰依
→ 戦後日本における「アメリカ」総体の検証
: 帝国としての日本と戦後日米抱擁構造の連続性


残された問い

記録映像からの戦後史

- 原子力表象を通じ、何が語られていないのか？
- 「原子力の夢」は、「原発安全神話」にどのように転位したのか？
- 「原子力の夢／安全神話」は、誰によって語られてきたのか？
- 博覧会・博物館、PR映画、TV番組、教育教材、科学言説は、どう関係してきたのか？

近代200年の中の戦後日本: 25年周期説?





3.11、あるいは
原子力的な雨のなかを
アメリカの傘さして